

第293回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年11月26日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

| | | | |
|--------|-----|--------|------|
| 豊口 協 | 委員長 | 大矢 純一 | 副委員長 |
| 佐野 晃之 | 委員 | 福島 聡 | 委員 |
| 碓井 真史 | 委員 | 大久保 千春 | 委員 |
| 尾畑 留美子 | 委員 | | |

会社側出席者

| | |
|--------------------|-------|
| 代表取締役会長 | 前川 磐 |
| 代表取締役社長 | 室川 治久 |
| 専務取締役（営業・事業・編成担当） | 永原 良太 |
| 取締役（報道・制作・国際担当） | 水島 敏夫 |
| 編成局長 兼 放送番組審議会事務局長 | 竹石 尚史 |
| 報道制作局長兼報道部長 | 稲田 裕之 |
| 制作部長 | 小木 裕介 |
| 合評番組プロデューサー | 羽田 朗 |
| 事務局 中川 保彦 | 海津 智洋 |
| | 紫竹 聡子 |

4 議 題

1) 番組合評

「NNNドキュメント ‘12

海を渡るコメ農家 アジアの胃袋を狙え」

[放送：10月21日(日)26時45分～27時15分]

(説明：番組プロデューサー 羽田 朗)

2) 会社報告

- ① 9月の視聴者の意見。 (報告：番組審議会事務局)
- ② 講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組はNNN系列29社が制作に参加している「NNNドキュメント」として10月21日に放送した番組であること、コメ農家の海外展開というテーマは県内ニュースのキャスターが「伝え手」であると同時に「作り手」として継続して取材に取り組んできたテーマであること、番組では中国で省の許可を受けて合弁会社を作り技術供与の立場で参加するコメ生産者と、台湾で現地生産を始め将来は中国へのコメの輸出をめざす生産者の2名を中心に取り上げたこと、取材時期が反日デモの激しい時期に当たったことなどを報告した。

●農家が海外で生産することになると、反対に技術で補えない風土など、国産へのこだわりをどう深めて確立してゆくかが大事だと感じた。

●食糧の輸出を伸ばすことは、万が一の時に国内の食糧をまかなうために必要な方策だと思う。

●日本のいいものが海外に伸びてゆくことはとても興味深く、見守りたいテーマなので継続して取り上げてほしい。

●放送時間が深夜なのでもったいなかった。

●農業のビジネス化は、JAに守ってもらう農業からの脱却、その先にある自給自足の問題、日本の農地を守ってゆけるのかという問題など、いろいろな面から考えてゆかなければならないと思った。

●ビジネスとしては自分のビジネスだけ考えていけばよいが、日本の田んぼを担う人がいなくなるのではないかという危惧もある。国として考えていかななくてはいけない問題だ。

JAがどう考えているか、もっと話してもらうべきだった。

その上で視聴者に、あなたならどう考えるかという判断をしてもらうようにすればよかった。

●農業のことは大多数の人にとっては、あまり考える機会がないが、みんなが考えるのによい番組だったと思う。

●見ごたえのある番組だった。貿易自由化の背景をもとに作ったと思うが、自由化というと安いコメが入ってきてどうなるかという問題が取り上げられるが、この番組ではコメ作りの技術移転と現地生産という新しい動きを分かりやすく伝えていた。

●より理解を深めるために、「コメの消費量」「日本のコメの輸出量」などもっとデータがあるとよかった。

- 新潟は農業県なので継続的に伝えてほしい。
- 番組で取り上げられている二人は、会社のホームページを見ると、豊かな食材の供給、堆肥のこだわり、後継者不足に悩む農家に安心して生産に取り組んでほしいなどと語っており、海外だけを見ているのではないことがわかる。番組でも日本の市場での活動にも触れてもらおうと良かった。
- 農業が革新を経て、モノだけでなく技術を展開してゆくと、その結果また製品が海外から日本にやってくるということもある。かつていろいろな産業が歩んで成功や苦労をしたが、いよいよ農業にもそういう波が入ってきて新潟県の人たちが先端にたって立ち向かっていると感じた。
- 日本の優秀な技術が技術者ともども海外へゆき、細かなノウハウが外国に伝わったために、現在の日本の業界が非常に苦労しているという事を想像した。今はそうならないように退職した社員まで誓約書を取るような時代になったようだが、そういう守る部分はあるのではないかと思った。
- 他業界の結果を見ると日本の技術そのものが生産者も含めて海外に移動するのではないかと危惧した。
- 技術を盗まれないように注意しようということなのか。それとも、そういう危険性はあるかもしれないが、海外へ打って出ることが長い目で見て日本や世界のためなのか。その答えのヒントが番組にほしいと思った。
- 補助金政策は、決してその産業を育てるベースにはならない。今まで補助金行政でうまくいった仕事はない。それを何とかしなくてはならないという警鐘のように感じた。
- 世界は食糧事情が緊迫していて飢えている人たちもいるが、

日本はなぜかコメを国内産業として保護だけやってきてずっと輸出しなかった。コメを作りたい農家の人はどこかで実力を発揮したいと思えば、中国へ行くとか台湾へ行くのは当たり前だと思った。

●日本の農業行政は非常に内向きで消極的だという気がする。この番組はその点に警鐘を發してくれたのではないか。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

10月…… 218件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年10月22日)から昨日(平成24年11月25日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第292回審議会では「元気一番生テレビ」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

8 今回の第293回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 10月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 10月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（10/23, 11/3, 11/13号）
- ・ BPO（No.115, 116）

以上